
おわりに

今年度の第4四半期の令和2年1月～3月は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に当事業団も影響された。令和元年末に中国武漢市で発生した新型コロナウイルスは翌年日本にも伝播し、1月の墨田川の屋形船におけるクラスター発生や豪華客船ダイヤモンド・プリンセス号内での4人の死亡を含む700名にも及ぶクラスター感染症を発生し、未知のウイルス感染は日本中を震撼させた。3月には東京などで外出自粛が推奨され、その結果、三越診療所の外来患者数が減少し始めた。職員と来院者の感染予防を適切に講じるために、診療所、総合健診センターともに消毒の徹底、検温やソーシャルデスタンスなどの環境を変える必要があった。

当事業団の新しい試みとして次の2点を紹介したい。

公益法人として都民の健康を守る観点から、令和元年5月から無料医療相談を開設し、健康に関わるすべての悩み、心配事に関する相談を受け付けた。医師を含め職員が相談する方の立場に立って解決のお手伝いをすることとした。無料医療相談は現在受診している方の相談が多くなると予想していたが、受診者の相談はなく、診療所、総合健診センターの運営がうまく回っていると思われた。その代わりにホームページを見た外部の方が無料医療相談に来ていた。無料医療相談は数年前から行っているセカンドオピニオン外来に続き、当事業団の医療の質を上げている。

健診では、オプションの検査項目を追加し、健診者の要望に応えることとした。以下が新しく追加したオプション検査項目である。

アレルギー検査項目の充実（MAST36）、腫瘍マーカーの充実（CYFRA、SCC、CA15-3、PIVKA-II）、血清フェリチン測定を開始した。CTによる内臓脂肪測定は内臓肥満の程度を数値化できるので好評を博しており、生活習慣病管理に一翼を担っている。

今年度は老人福祉施設無料巡回健診の3年目にあたり、3施設の162名の入居者に3日間かけて健診を行った。無料巡回健診は施設の方々より毎年感謝されている。入居者の年齢層が高いため、私たちはサルコペニアの研究も行った。「老人福祉施設入居者におけるサルコペニア、ロコモティブシンドロームの経年変化」とのタイトルで山下所長が、7月の岡山で開催された第60回人間ドック学会で発表した。

疾病予防の啓発事業として、今年度大きく変わったのは、新型コロナウイルス感染症のため、3月の健康講座を中止せざるを得なかったことである。一方、11月の健康セミナーと12月の生活習慣病健診報告会健康管理者セミナーはともに好評だった。健康セミナーでの「意識していますか？ 血管に良いこと、悪いこと～血管を若く保つための生活習慣について～」には定員の3倍以上の応募があった。日本の平均寿命は毎年毎年伸びているが、いかに若々しく毎日を過ごしてゆけるかが、参加者の関心の中心であった

当事業団では三越医学研究助成と三越海外留学渡航費助成を毎年行っている。応募者数は例年どおりであったが、三越海外留学渡航費助成者のなかに、世界の新型コロナウイルス感染症蔓延のため、海外の留学地へ出立できず、留学が遅れている研究者がいる。新型コロナウイルス感染症は医学者の交流まで阻害している。

当事業団の診療、健診は新型コロナウイルス感染症のため、次年度は大きく影響を受ける可能性がある。新型コロナウイルスに負けない体制を心して準備をしていく必要がある。

稿を終えるにあたり、年報の個々の項目について、原稿を書ってくれた方々、資料を提供し、かつ、資料をきれいにまとめてくれた方々、年報の編集にあたってくれた方々すべてに深謝したい。

(水野杏一 記)

公益財団法人 三越厚生事業団 事業年報 第47号

令和2年10月1日発行 非売品

編集兼
発行者 笹岡 寛／水野杏一

発行所 公益財団法人 三越厚生事業団
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1
TEL : 03-3348-5791 FAX : 03-3348-5795
<http://www.mhwhfor.jp>

公益財団法人
三越厚生事業団

MITSUKOSHI HEALTH
AND WELFARE FOUNDATION
URL <http://www.mhwf.or.jp>